

## ①活動概要

日本海に面し、地場でとれる魚介類の質の高さは定評があるが製品のブランド化には遅れを取っている状況下において、都市と地方の交流はもとより、地域で更なる活動展開（まちづくり、経済など）すべく、底建網船三隻を一口10,000円総数120名でその日とれた魚を配分するオーナー制を実施するもの。

## ②活動の体制

遠別町内の活動団体、自治体の協力はもちろん、ルート内で、不得意分野などを補うため、たくさんの活動団体が参画し、遠別農業高校などの実践協力なども合わせ、実行委員会方式のプロジェクトを組む

## ③苦勞した点や工夫した点

実際、当日の漁が悪天候や不漁であった場合などの心配があった。オーナーをインターネットなどで募るなど情報の受発信におけるスキルはルート内活動団体のFM局など、また、物販やPRなど各町村商工会など、得意分野を補完する形をとったこと。漁の臨場感を味わっていただくための遊漁船を準備したり、生簀の見学、捌き方講習なども行った。

## ④活動の効果

開催2年目には、ヒラメのブランド化を研究する会が組織されるほどの影響力を持ち、地元料理屋などへの地域内経済循環への足がかりとなった。ルート全体への波及効果も大きく、情報受発信の重要性を認識し、連携が図られやすくなった。

## ⑤今後の活動

漁業従事者の思いが一番肝心なプロジェクトだが、今後はカーボンオフセットなどの環境活動にも連動するよう、更なる展開を模索していく。ブランド化について、連携を取れる仕組みづくりも検討していきたい。



網から水揚げする様子



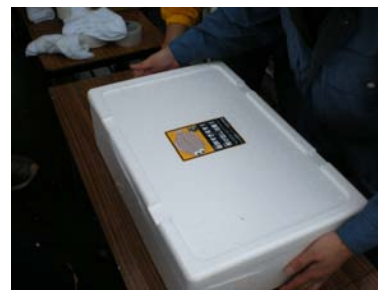
水揚げ作業を遊漁船から見守るオーナー



水揚げされた魚を生簀に運ぶオーナー



捌き方を学ぶオーナー



来場できないオーナーへ発送



ルート内物産の紹介販売

ベストシーニックバイウエイズ・プロジェクト2009

ルート名	萌える天北オロロンルート
活動の名称	ヒラメ底建網オーナーin遠別
活動期間	平成20年度～平成21年度
評価の視点	①活動の持続性、②活動の地域への浸透・波及、 ③ルート運営の基盤強化、④ブランド形成・活用、⑤人材育成の充実、 ⑥その他（シーニックバイウエイ北海道の推進への寄与）
1. アピールポイント	<p>当該ルート内（留萌管内）において、生産出荷される農、魚産物が都市部をはじめ全国各地へ流通されています。とりわけ、当該ルートの産物の質の高さは自他共に認知をされているところですが、情報発信力はいつも周回遅れとなっている状況の中、ブランド力強化も思うような展開が出来ず、これまで長年に渡り、課題とされてきました。しかし、ルート内の活動団体が協力、連携をとることで、得意分野を補完しあいながら、遠別町のヒラメを全国に売り出そうという試みを実施しています。元々、高級魚であるヒラメにブランド力をつけることで、漁業者の安定的な収入、生産意欲の高揚を図り、地産地消を活かしながら地元での地域内経済の循環と『暮らしぶり』の中で、一次産業への誇りや自信の醸成を図ろうと、地元自治体のみならず、ルート内全域の自治体でも広報等で連携を図りました。</p> <p>この企画は、ヒラメに限らず、底建網に入った他種目の魚類全てがオーナーさんに配られるところも魅力の一つで、希少で高価な魚もゲットできて訪れた方々に大変好評でした。</p> <p>消費者とこうした漁業従事者とが共に水揚げ、催しなどを通じて交流できることは、まさに社会資本整備の重要性が大きく、都市と地方の交流においても一助となりうる活動と考え推進に力を入れたいプロジェクトであります。ルート内の幹事会において、遠別町担当の幹事が地元の宝物を活かすために幹事会で草案を練り、ルート内の活動団体に呼びかけ、核である地元漁協を中心に各自治体、他町村からの協力、支援があったおかげで、少なくとも新しくかつ多方面の方々が協力し合うことで、今後の遠別産ヒラメのブランド力向上のきっかけ、足がかりとなったことは間違いないと考えています。また、ルート内などで協力、補完しあうことで地元の方々が自主的で発展的な行動に移した実績からも、今後も継続が予測されると同時に新たな展開が期待できます。</p>
2. 創意工夫、苦勞した点（前回からの改善、向上させた点）	<p>本年度から、地元の方々の理解が深まり、ブランド化を研究しようという会が組織され、活動を始めたり、同じ日本海沿線で、この遠別町ヒラメオーナー制度からヒントにエビ籠オーナーのイベントを催したり、ルート内での刺激創造に繋がって来ています。このプロジェクトで今年度は、オーナーさんと従事者ともっと交流できる場を設けて、遠別そして萌える天北オロロンルートのファンを増やし、新たな戦略を組み立てようと動きました。</p> <p>次年度に向けて、当該ルートにおいて環境活動を絡めた動きが出来ないか、現在模索中であり、一番の向上がこれまで坦々と暮らして来たところから外への発信、新たに動き土倉と考える携わったみなさんの中にポジティブな精神が養われたことが最大の向上点ではないかと考えます。</p>